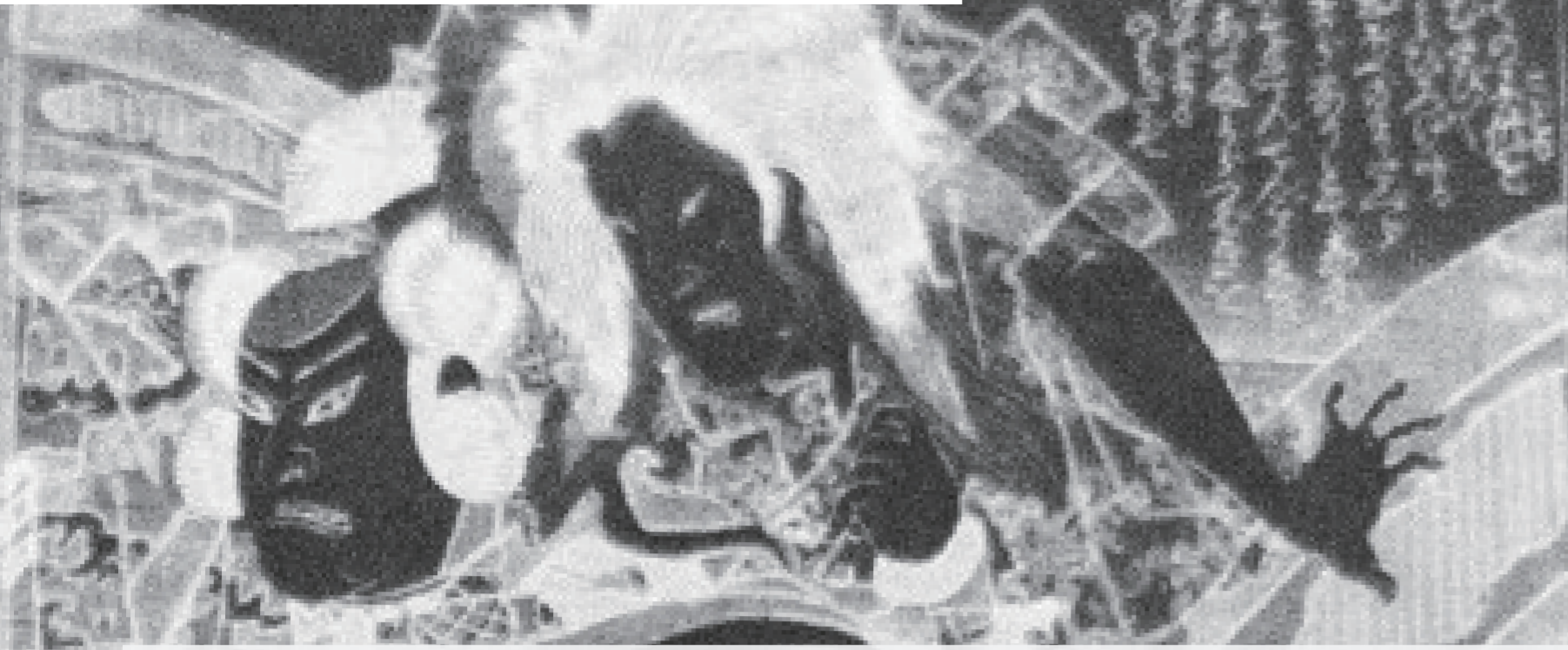


日本研究所主催講演会



春本は、幕末の頃にはまだ広く読まれていたのに、なぜ近現代日本では「恥ずかしい」ものになり、読まれなくなってきたのだろうか。近代日本のどこを見れば、その回答が現れるのだろうか。

明治維新以降の「近代化」を背景に、日本が様々な面で大きく変わっていく中で、写真技術も急速に発展し、その影響で日本のビジュアルカルチャー全体も根本的に変わってきた。主な画像制作手段が版画から写真に移行したことで、ある意味では画像取得は「描写」から「模写」へ転換したともいえる。しかし、明治維新以降は技術発展だけではなく、公衆道徳も含めて、日本の文化的な風景も大きく変わってきた。その中で、春本およびエロティカ全体に関する認識も変わり始め、「大衆文化」から「サブカルチャー」になる道に入ったとも言える。

そこで本講演は、明治維新以降の技術的および道徳的な変化を分析し、春本の近代的な運命を考察する。

春本と写真を中心にした近代日本のある物語

大衆文化からサブカルチャーへ

【日時】 2021年12月9日(木)  
3限 (13:10 ~ 14:40)

【講師】 ムスタツェア・アレクサンドラ 先生  
(神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科特別専任講師)

【形式】 オンライン (Zoom)

【事前登録】 下のQRコードより  
事前登録をお願いします。

事前登録用▼



MeetingID : 990 9647 1732  
Passcode : kindai

講演会Zoom▼

